

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>【教育目標】 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」</p> <p>【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子 【知】意欲的に学習に取り組む子ども み：みんななかよく支え合う子 【徳】規範意識を持ち、仲間と支え合う子どもの：のびのび生き生きやりぬく子 【体】粘り強く心身を鍛え、やりぬく子ども</p>		<p>○網野学園としての「未来を拓く学校づくり」に関わる研究と連携した校内研究を進め、非認知能力の育成をベースとした学力向上に取り組むことができた。</p> <p>○本校で育てたい非認知能力を「たちっ子パワー」として設定し、教職員・児童で共有できた。</p> <p>○組織的な特別支援教育を進めることで、個に応じた指導や合理的配慮により個々の児童や学級の安定が見られた。</p> <p>△学力診断テスト等について結果を分析したり、それを活用したりしたが、その効果については十分得られず、活用方法や指導について改善の必要を感じた。</p> <p>△時間外勤務時間は、月平均45時間の目標を達成できたが、一部教員への負担が大きい状況は改善できなかった。</p>	<p>【教育活動の目標】 「考えてつながり、最後までやりぬくたちっ子」の育成～目的意識と達成意欲を大切にした教育活動の推進～</p> <p>【教育活動の具現化に向けて】 たちばなを好きになる 安心して自己表現できる学校を、みんなでつくる。 知：知恵を磨く 自己の成長を喜び、主体的に学ぶ力をつける。 徳：場を大切にする。 豊かな人間関係を築く力をつける。 体：なに事もやりぬく。 粘り強くゴール(目標達成)を目指す力をつける。 「自立と支援の見極め」「働き方改革の推進」 「認知能力と非認知能力の一体的な育成」</p>
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)
学校教育指導の重点 学校 教育 指導 の 重点 保 幼 小 中 一 貫 教 育 の 諸 計 画 及 び	教育課程 学習指導	1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善を行う。 ・算数科を重点教科とした組織的な授業研究を通して、認知能力と非認知能力を一体的に育成する。 ・児童と共に学習課題を設定し、解決型の授業づくりを通して探究的な学びを進める。 ・単元構想シートやギミックシートを活用した授業づくりを行う。 2 学力向上の取組を進める。 ・ICTの活用や、小規模校の良さを生かして個別最適な学びの具体化に努める。	○網野学園としての授業研究会と、4回の校内授業研究会を通して、教科の指導内容と非認知能力の育成の両立を目指した研究を進めることができた。 ○クラウドを活用した非認知能力の振り返りを行い、児童の非認知能力を発揮した授業参加の意識を高めることができた。 △非認知能力の向上による学力の向上を成果として表れるようにしていく。
	生徒指導	1 豊かな人間関係を築く力を育てる。 2 校内組織の連携を密にし、児童のより良い人間関係づくりを支援する。 3 いじめや不登校の未然防止に努める。	1 豊かな人間性を育てる。 ・道徳の授業や人権学習の充実を図ることで豊かな人間性の基礎を培う。 ・地域等、多様な人との関わりを通じた学習から豊かな人間性の素地を養う。 2 認め合える集団づくり ・学級や異年齢集団等多様な集団での活動を通して豊かな関わりを経験させる。 3 教育相談部、生徒指導部等の連携と機能化、丁寧なアセスメントと個に応じた支援により、いじめの防止や不登校の未然防止に努める。

各学園の重点等を基盤として	健康（体育）・安全	<ol style="list-style-type: none"> 1 目的意識をもって粘り強く取り組む意識を育てる。 2 運動好きな児童を育てる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 主体的な児童の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・児童が挑戦できる場や、目標をもって取り組むための支援と肯定的な評価を大切に取組を進める。 ・振り返りの場を大切に、主体的な姿を価値付けることで次への意欲を高める。 2 健康の維持・体力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した体育的な活動を通して、運動を楽しむ児童を育てる。 ・体力づくりの取組などを通して、児童が目標達成に向けて最後まで粘り強く取り組む力を付ける。 ・生活リズムを整える取組を進めるとともに、生活習慣等に課題のある児童や家庭に対して丁寧な支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活点検の取組を、非認知能力育成と関連付けた生活点検に取り組み、児童が自己の生活リズムを見直す機会とできた。 ○マラソン大会に向けた朝マラソンの取組を熱中症対策を行いながら実施できた。 ○異年齢集団活動（春の運動会・大縄大会）の取組では、児童による振り返りを大切に進め、教職員による支援と、児童の主体性を活かした活動のバランスを考えながら進め、教育的効果を高めた。 △自己調整能力の向上のため、児童主体の活動を充実させるとともに非認知能力の意識化に向けた手立てが必要である。
	特別支援教育	<ol style="list-style-type: none"> 1 個に応じた指導と、理解教育を進め、児童が安心して学習できる学校づくりを進める。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 特別支援コーディネーターを中心とし、特別支援教育指導員の助言も生かした組織的な特別支援教育を進め、個に応じた効果的な指導を行う。 2 全校的な理解教育を充実させ、どの児童も安心して学習できる環境づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童個々のアセスメントを丁寧に行い、特別支援教育部の組織を通して必要な支援と自立のための活動を検討、設定できた。 ○特別支援教育指導員を活用し、個に応じた学習の場を提供できた。 ○人権教育とも合わせて理解教育を進め、全ての児童にとって安心安全な学校となるよう環境づくりに努めた。
	情報活用能力（ICT活用）	<ol style="list-style-type: none"> 1 ICTを活用した多様な学習により、情報活用能力とコミュニケーション能力を高める。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 ICTの効果的な活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用により、児童の興味関心を引き出す授業展開を工夫し、学力とICT活用能力の向上を目指す。 ・授業中でのコミュニケーションツールとして、ICTの活用を充実させる。 ・授業と関連付けたタブレットの持ち帰り学習を進め、家庭学習の充実とICT活用能力の向上につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○放課後の時間を活用したミニ研修会を設定し、クラウドの利用やデジタル資料利用時の著作権等について学ぶことができた。 ○海外の日本人学校とZoomを使った遠隔授業や、Google chat や classroom 使った学習のまとめの交流を行うことができた △指導者のICT活用能力向上のためにも校務でのクラウド利用の場を広げていく必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・非認知能力を生かした主体的な学習活動や探究的な学びの場を設定することで、学びを自己調整する力を高める。 ・特別支援教育と人権教育を充実させ、理解教育を進めることで、児童の心理的安全性を高める。 ・教職員の人権感覚を高め、人権学習を柱としたより良い人間関係づくりの取組を進める。 ・発達支持的生徒指導の機能を働かせ、児童の主体的な活動の場を生み出せるよう行事・取組を工夫する。 ・認知能力と非認知能力を一体的に育成する研究成果を大切に重点研究を充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める。 ・基礎的・基本的な内容の定着を図り、学力課題の克服を目指す。 			